

令和7年度【2025年度】

とうきょう すぐわくプログラム活動報告書

施設番号	66-〇〇〇〇
施設名	〇〇保育園
施設所在地	新宿区〇〇1-1-1
法人名	社会福祉法人〇〇会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

絵本

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

普段から絵本に興味を持ち遊びに発展することがある。より遊びの世界が広がり、イメージを共有して遊ぶ楽しさを味わえるよう設定することとした。「からすのパンやさん」はパンがたくさん出てくる場面があり想像しやすうことや、お店のやりとりがあることでごっこ遊びに発展しやすそうであると理由で選んだ。

2. 活動スケジュール

- ①絵本「からすのパンやさん」を繰り返し読み聞かせる。
繰り返し見ることでストーリーを理解し余韻や想像を楽しむ。
- ②玩具を使い物語を表現する。
LaQ、ロンディ、積木、ブリズモ、粘土等の玩具を組み合わせ、いずみがもりを友達と協力しながら表現する。
- ③完成した森や店を使いごっこ遊びをする。
かまどでパンを焼き、作ったパンを売り買ひするなど絵本の世界をイメージしながらごっこ遊びを楽しむ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・絵本 ・積木 ・ロンディ ・LaQ ・粘土 ・ブリズモ ・画用紙 ・色鉛筆
・ポンキー ・クレヨン ・絵の具 ・筆

各クラス2冊ずつ絵本を用意し、飾り用と自由に読む用に分け提供。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・繰り返し絵本を見ることで理解や興味を深める。
- ・協力しながら玩具(積木、LaQ、ロンディ等)を組み合わせ絵本の場面を表現する。何が足りないのか、どうすればより上手に表現できるかを相談し完成度を高めていく。
- ・粘土や絵の具でパンを作る。
- ・作った環境を使ってごっこ遊びをする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

絵本を繰り返し見る度に「かまどがある」「木に蜘蛛の巣がくっついてる」等、細かい発見が増えていった。すぐに表現の方法を思いつくこともあれば思いつかない場面もあったので保育士も一緒に考えたり新たな素材を用意するなどし手助けしていった。積木で森を表現するにはある程度の高さや数が必要だったので椅子や脚立を使っていった。途中、「天井まで木を高くしたい」との声があったので保育士が補助しながら天井まで積み上げた。物語からは一度外れてしまったが、子ども達は達成感を感じていた。その後相談し木の高さは、手が届かないと困るとの理由から子ども達の身長ほどの高さとなった。森の雰囲気ができると予想通り「パンを作りたい」との声が挙がったので粘土と絵の具を用意しパン作りを楽しんだ。物語に出てくるパンもあれば想像して作るパンもあった。一通り場面が完成すると自然とパン屋さんごっこはじまった。お金がないことに気付いたがすぐに紙に書き切って作る等、子どもたち同士で発展させていたので保育士は見守るようにしていった。何度も繰り返し遊んでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

絵本を繰り返し読む度に新しい発見があり理解も深まっていた。その発見を玩具で表現することが楽しくなり遊びが広がっていた。一日では終わらない為、次の日を楽しみにしていた。ごっこ遊びの中でお金がないことに気付いた時、おもちゃのお金があることを伝えようとしたが、自分達で作りはじめた姿をみて成長を感じた。保育士も絵本のキャラクターに愛着を持つことで子ども達にもより楽しさが伝わった。遊び込む経験をすることで自信を深め、違う遊びにもいい影響が出ていた。外でカラスを見ると「何してるのかな」「遊びに来てるのかな」と想像を楽しんでいた。